

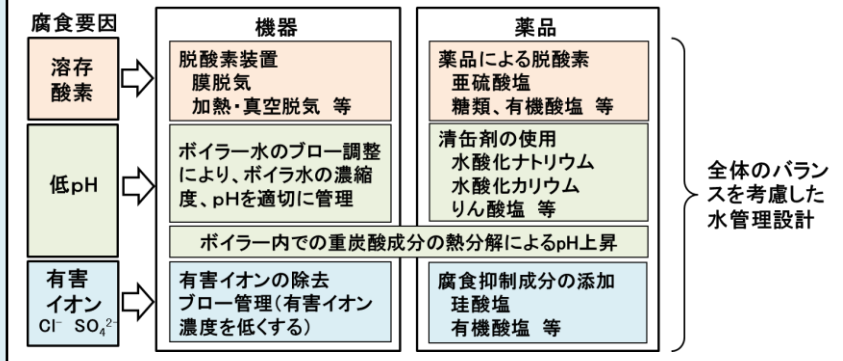
1994年にヒドラジンが変異原性が認められた既存化学物質に指定※されたのを受けて、ミウラでは、2001年にヒドラジン薬品を全廃しました。

ヒドラジン全廃から20年。

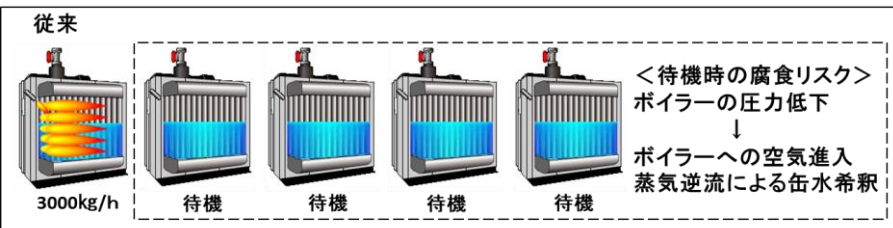
水処理機器及び代替薬品の使用、ボイラーの高性能化、通信監視等によって、十分なシステム保全を実現しています。

※労働省労働基準局長の通達(基発第341号の3)

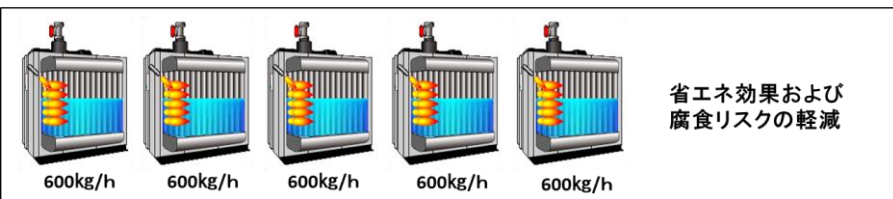
腐食要因と抑制方法



ボイラーの高性能化



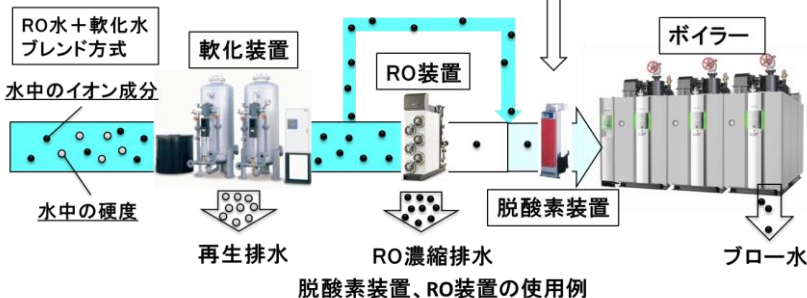
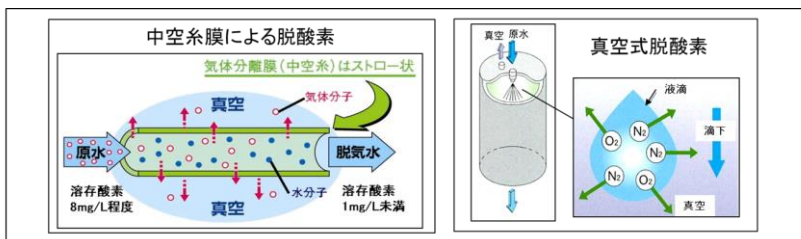
ターndダウン比拡大 (ターndダウン比: 定格燃料流量と制御可能な最小燃料流量の比)



多缶設置システムの例(蒸発量3000kg/h×5台)

水処理機器の活用

(脱酸素装置の使用や、RO装置による有害イオンの除去)



通信監視



※用語は日本ボイラ協会の書籍、文献の表記に統一しています。